

平成21年度第1回中原区区民会議運営部会会議録

日 時 平成21年6月2日(火) 午後1時30分～午後3時2分

場 所 中原区役所5階501会議室

出席者 藤枝部会長、鈴木副部会長、竹井委員、芳賀委員、藤嶋委員、吉房委員

(事務局)小野寺副区長、齋藤企画課長、織裳主査、小木曾主任、石渡職員、鈴木職員、櫻井主査

傍 聴 なし

報 道 なし

次 第

1 開会

2 会議録確認委員の選任

藤嶋委員を選任

3 議題

(1) 第1回中原区区民会議の運営について

ア. 課題調査部会の審議内容について

藤枝部会長が所要により途中退席となるため、鈴木副部会長が議長となることが確認された。

竹井課題調査部会部会長から、資料1、2及び3-1に基づき、課題調査部会の審議内容及び課題調査部会の取り組み事項(案)について説明

(主な意見)

- ・ 地域課題連絡協議会については、各課題に対する既存の団体があるので新たに設置する必要はないと思う。また、既存団体の活動も浸透している。区民の問題は区民で解決する考えが大切である。(吉房委員)
- ・ 活動団体が無い分野もある。そこから取り組んでいきたい。(竹井委員)
- ・ マンションを含め、町内会・自治会の加入率が低くなっていることへの対策については、地域の人が何を必要としているのか、どのようなコミュニティを希望しているのかニーズを把握することが大事だと思う。例えば、「子育て」「病気」「住居」「就職」など同じ悩みを持っている人が、そのような人同士で話し合う場を持ったりするなど、何が必要か考えながらコミュニティづくりを進めたら、もっと加入や参加が促進するのではないか。(藤嶋委員)
- ・ コミュニティの種類は多数ある。最近では、食を通じた住民の交流の場として、「コミュニティー・レストラン(コミレス)」などといった変わったものも出てきている。どのようなコミュニティが一番中原にマッチしているか考える必要がある。昔は、井戸端会議みたいなものがあったが、最近では人間関係が希薄となっている。「あいさつ」をしない人も増えている。「あいさつ」を「する」、「しない」はモラルの問題で、励行は難しいが、「あいさつ」はコミュニティ形成の出発点であることは間違いない。(吉房委員)
- ・ 課題の投げかけ先としては、町内会が重要である。放置自転車対策の取り組みに関

するチラシを作成したが、町内会を經由して配布することができた。結果として、一番有効であった。(芳賀委員)

- ・ 地域課題連絡協議会について設置を前提に区民会議に提案するのはどうであろうか。実務担当者を中心とした協議会とするというが、結局、各団体の代表者が集まることとなるのではないか。従来の充て職みたいなやり方では、効果が出ないのではないか。(鈴木副部長)
- ・ 協議会を充て職でやるようだ、町内会長の負担がまた増えてしまう。一人の人が何役もやるようだ、と上手いれない。いろんな人が参加するような仕組みができないと実現が難しい。(芳賀委員)
- ・ 地域課題連絡協議会は、町内会長構成員とするのではなく、実務者を中心とした団体にする提案である。(竹井委員)
- ・ 今までと同じように町内会長のところへ話がいくようなことがないよう、実行性がある会にしないと駄目である。(鈴木委員)
- ・ 実務者と言っても、町内会長が推薦するような人でないと駄目である。何も町会の実務を知らない人が選出されても機能しないだろう。ただし、引越しをしてきた人や今まで何の役をやったことのない人が参加することで、その人たちの楽しみや生き甲斐になれば素晴らしいと思う。(藤嶋委員)
- ・ 資料の「地域課題連絡協議会を設置」という記載の仕方がどうであろうか。このような問題で設置を前提にして区民会議に提出することはおかしい。「設置を検討」などといった表現にして区民会議に提案するべきである。(鈴木副部長)
- ・ 地域課題連絡協議会については、再検討した方がよい。(吉房委員)
資料3 - 1において、地域課題連絡協議会については、「設置を検討する」といった表現に修正する。

事務局から、資料4に基づき、平成21年度第1回区民会議の次第案を説明

- ・ 第1期の検討課題である「環境」の取り組みを報告したい。(竹井委員)
 - ・ 第2期の最初の課題である「放置自転車問題」の取り組みを報告したい。(芳賀委員)
- 次第案に、「これまでの課題に対する取り組み」を加えることで了承

イ. 第1回区民会議日程について

事務局から、「平成21年7月10日(金)午後3時~午後5時30分」開催を提案
了承

(2) 第2回中原区区民会議の運営について

ア. 第2回中原区区民会議の検討テーマについて

吉房委員から、資料6 - 2 区民会議の審議テーマ案「まちの魅力を見つける」について説明

事務局から、資料6 - 1 「第2期中原区区民会議の検討テーマ案一覧表」及び資料6 - 3 「区民会議に取り上げて欲しい地域課題」について説明

(主な意見)

- ・ 資料 6 - 3 の区民会議に寄せられた区民からのメールについて、防災分野の課題であり、排水ができないことが問題と思うが、ハザードマップを見ると浸水を予告されているエリアだと思う。市としての対策はどうなっているのか。(芳賀委員)
- ・ 手元に資料がないので詳しいことは分からない。規格を満たした下水道が整備されているが、基準を超える集中豪雨があったため冠水したものと思われる。(企画課長)
- ・ 近年では、奥多摩でも 1 時間あたり 700 ミリを超える集中豪雨を記録しており、この問題は国土交通省も対応に苦慮している。区民会議の役割は、地域の課題を自分たちで解決する方策を見つけることであり、ハード(都市基盤)整備の要望を区民会議が市に働きかけていくようなことではないと考える。課題の選定にあたっては、自分たちで解決可能なソフト面の課題を選定することが適切ではないか。(鈴木副部会長)
- ・ 浸水対策は、インフラ整備により対応する部分が大きいのと思う。区民会議で取り上げて欲しいという声を聞いて、どうしたらよいか苦慮している。依頼者は、真剣に悩んでいると思う。何か対応したいが、インフラ整備を含めて対応策は専門的であり、区民会議として取り扱うのは難しい。しかし、何も対応しないのではなく、担当部局に、このような意見があったことを伝えたらどうか。(芳賀委員)
- ・ 依頼者にも、審議状況を伝え、都市基盤整備の問題であり、区民会議の所掌ではないことを伝えていく必要がある。(竹井委員)

事務局から担当部局へ、区民から区民会議の課題として「浸水対策」を取り上げて欲しい依頼があったことを伝える。また、依頼者にも区民会議運営部会での検討結果、対応等について報告していくこととする。

- ・ 「ごみ」(自然環境又は生活環境の向上に関するテーマ)について審議したい。「ごみ」問題については、地域の方々がもっと勉強した方が良いと日頃から感じている。(藤嶋委員)
- ・ 検討テーマとして意見が多かったのは、「子育て・教育」「緑の保全・こみの抑制」「文化又は観光の振興」の分野であった。(鈴木副部会長)
- ・ 新住民が増えて、子どもが増えることにより学校の教室が足りなくなると聞いている。また、NPOで子育て関係のイベントを実施すると参加者が50組100名を超えるほどであり、関心が高い分野である。また、私が取り組んでいる放置自転車問題も、個々のモラルが大きな要素を占めており、根底には教育問題がある。しかし、子育てについては、地域ごとの取り組みも進められていることや「こども文化センター」という川崎市独自の青少年施策により対応している。よって、今回の課題は「教育」でなくてもよいと思う。(芳賀委員)
- ・ 「まちの魅力」というテーマならば、現在審議している「コミュニティづくり」の課題と連携させることもでき、また、進め方によっては「コミュニティづくり」を発展させることもできると考える。さらに、「観光」「自然・環境」「企業」と幅広い論議ができるテーマだと考える。(鈴木副部会長)
- ・ 「まちの魅力」は「文化」「観光」にとどまらず「商店街」など多様なものが含まれ

ている。生活環境として「空気がきれい」といったことは環境の分野であるが、「まちの魅力」としても捉えることができる。(竹井委員)

- ・ 「ごみ問題」は、「放置自転車問題」と同じで観念的な要素強く、テーマとして取り扱いが難しいことがある。「まちの魅力」の中に「きれいなまち」といった形で含めていくことも可能であると思う。また、区内の大企業でゴーヤーの栽培をしているが、「企業」の環境への取り組みも「まちの魅力」として発信できるものだと思う。「まちの魅力を見つける」というと「あるものを見つけることとなり、魅力をつくる」部分が含まれていないように感じる。(芳賀委員)
- ・ 「まちの魅力」というテーマを基本として、本日の皆さんの意見を(正副部会長で)まとめさせていただき次回の区民会議で報告させていただくことでよろしいでしょうか。(鈴木副部会長)

了承

イ. 日程について

事務局から、10月8日(木)午後6時~午後8時30分開催を案として提示する。

この案を中心に調整することです承

午後3時2分 終了

以上要約のみ